

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成26年11月11日
【四半期会計期間】	第68期第2四半期（自 平成26年7月1日 至 平成26年9月30日）
【会社名】	ライト工業株式会社
【英訳名】	RAITO KOGYO CO., LTD.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 鈴木 和夫
【本店の所在の場所】	東京都千代田区五番町6番地2
【電話番号】	東京(3265)2551（大代表）
【事務連絡者氏名】	執行役員経営管理本部副本部長 山邊 耕司
【最寄りの連絡場所】	東京都千代田区五番町6番地2
【電話番号】	東京(3265)2551（大代表）
【事務連絡者氏名】	執行役員経営管理本部副本部長 山邊 耕司
【縦覧に供する場所】	ライト工業株式会社 中部統括支店 （愛知県名古屋市中村区畑江通4丁目22番地） ライト工業株式会社 西日本支社 （大阪府吹田市江坂町1丁目16番8号） 株式会社東京証券取引所 （東京都中央区日本橋兜町2番1号）

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

回次		第67期 第2四半期 連結累計期間	第68期 第2四半期 連結累計期間	第67期
会計期間		自平成25年4月1日 至平成25年9月30日	自平成26年4月1日 至平成26年9月30日	自平成25年4月1日 至平成26年3月31日
売上高	(百万円)	32,857	36,359	92,698
経常利益	(百万円)	1,208	2,276	6,748
四半期(当期)純利益	(百万円)	916	1,586	3,973
四半期包括利益又は包括利益	(百万円)	1,350	2,296	4,519
純資産額	(百万円)	34,220	38,246	35,803
総資産額	(百万円)	62,182	70,360	71,500
1株当たり四半期(当期)純利益金額	(円)	17.41	30.13	75.45
潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額	(円)	-	-	-
自己資本比率	(%)	55.0	54.4	50.1
営業活動によるキャッシュ・フロー	(百万円)	1,049	5,606	1,323
投資活動によるキャッシュ・フロー	(百万円)	451	93	1,801
財務活動によるキャッシュ・フロー	(百万円)	706	1,225	394
現金及び現金同等物の四半期末(期末)残高	(百万円)	12,742	16,525	12,099

回次		第67期 第2四半期 連結会計期間	第68期 第2四半期 連結会計期間
会計期間		自平成25年7月1日 至平成25年9月30日	自平成26年7月1日 至平成26年9月30日
1株当たり四半期純利益金額	(円)	16.35	19.64

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
2. 売上高には、消費税等を含んでおりません。
3. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2【事業の内容】

当第2四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)が営む事業の内容について、重要な変更はありません。

第2【事業の状況】

1【事業等のリスク】

当第2四半期連結累計期間において、新たな事業等のリスクの発生、または、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについての重要な変更はありません。

2【経営上の重要な契約等】

当第2四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

3【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループ（当社及び連結子会社）が判断したものであります。

（1）業績の状況

当第2四半期連結累計期間における建設業界は、民間建設投資に緩やかな回復が見られ、公共建設投資につきましても、総じて堅調に推移しました。

このような状況のもと、当社グループの当第2四半期連結累計期間における受注高は、公共土木の受注は増加したものの、民間建築受注の減少により、前年同期比0.8%減の551億5千5百万円となりました。

売上高は、施工が順調に進捗したこと等により、前年同期比10.7%増の363億5千9百万円となりました。

利益面では、売上高が増加したことに加え、売上高総利益率の改善により、売上総利益は前年同期比30.2%増の61億7千7百万円となりました。これにより、営業利益は前年同期比93.9%増の21億6千万円、経常利益は前年同期比88.5%増の22億7千6百万円となり、四半期純利益は前年同期比73.1%増の15億8千6百万円となりました。

セグメントの業績は次のとおりであります。

「建設事業」

建設事業の連結売上高は、360億3千3百万円となりました。

「その他」

その他事業の連結売上高は3億2千5百万円であり、主なものは建設資材等の販売であります。

（2）キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

営業活動によるキャッシュ・フローは、56億6百万円の収入超過（前年同期は10億4千9百万円の収入超過）となりました。これは主に、売上債権の減少（101億9千8百万円）及び未成工事受入金の増加（36億7千3百万円）による収入が、未成工事支出金の増加（44億4千8百万円）及び仕入債務の減少（43億5千9百万円）による支出を上回ったことによるものであります。

投資活動によるキャッシュ・フローは、9千3百万円の支出超過（前年同期は4億5千1百万円の支出超過）となりました。これは主に、有形固定資産の取得による支出（8億5千9百万円）及び有価証券の取得による支出（7億円）が、投資不動産の売却による収入（10億2千万円）を上回ったことによるものであります。

財務活動によるキャッシュ・フローは、12億2千5百万円の支出超過（前年同期は7億6百万円の支出超過）となりました。これは主に、短期借入金の返済による支出（5億円）及び配当金の支払（5億2千4百万円）によるものであります。

以上により、当第2四半期末の現金及び現金同等物の残高は、前期末比44億2千5百万円増加し、165億2千5百万円となりました。

(3) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第2四半期連結累計期間において、当社グループの事業上及び財務上の対処すべき課題に重要な変更及び新たに生じた課題はありません。

(4) 研究開発活動

当第2四半期連結累計期間の研究開発費の総額は142百万円であります。

なお、当第2四半期連結累計期間において、当社グループの研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

(5) 経営成績に重要な影響を与える要因及び経営成績の現状と見通し

当社グループを取り巻く事業環境は、資材価格や労務価格の一段の上昇が懸念されますが、公共建設投資の増加により受注環境の改善が期待されるなど、堅調に推移するものと考えられます。

このような状況のなか、当社グループ全体で事業量を確保するとともに収益力の向上を図るため、以下の課題を実施してまいります。

安全衛生管理の徹底

より信頼される企業を目指し、品質の確保はもちろんのこと、労働安全衛生法など関係法令を遵守し、作業手順に沿ったリスクアセスメントをさらに定着させ、労働災害の減少・重大災害の撲滅に努めてまいります。

専業土木事業分野におけるグループ経営体制の強化

経営資源を有効に活用した営業体制の強化と経費の圧縮などコストダウンを徹底することで経営基盤を固めるとともに、地域子会社の特性を生かした営業活動により、グループ経営体制の強化と事業量の確保に努めてまいります。

建築事業分野での事業規模の確保

安定的成長を目指し、安全・品質を確保することで顧客満足度の向上に注力し、長期的かつ継続的な信頼確保に努めることで事業量の確保に努めてまいります。

海外事業分野での事業規模拡大

徹底した市場調査を行うことによるリスク評価を充実させることを念頭に、市場規模の拡大を目指すとともに、組織充実を図り経営基盤を強化し事業量の確保に努めてまいります。

技術開発への取組

急激に変化する時代と顧客ニーズに迅速に対応し、将来の基盤となる新技術開発の推進と新しい事業領域を確保するため、専業土木事業分野において、開発部門の組織の見直しと体制の充実を図ってまいります。

財務基盤の強化

固定費の更なる削減に取り組み、厳しい市場環境下にあっても安定した利益を確保できるよう、収益力を強化するとともに、工事代金の早期回収によりキャッシュ・フローの改善を図り、また、遊休不動産の売却等を進め資産効率を向上させ、強靱な財務体質の構築に努めてまいります。

(6) 生産、受注及び販売の実績
受注実績

セグメントの名称	前第2四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)		当第2四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年9月30日)	
	受注高 (百万円)	次期繰越工事高 (百万円)	受注高 (百万円)	次期繰越工事高 (百万円)
建設事業				
斜面・法面对策工事	17,208	17,893	18,976	18,068
うち法面保護工事	11,327	11,202	11,598	11,522
うち地すべり対策工事	5,880	6,690	7,378	6,545
基礎・地盤改良工事	19,047	17,966	19,075	16,162
補修・補強工事	1,967	2,182	1,884	2,116
環境修復工事	1,561	2,616	3,123	2,257
管きよ工事	1,584	1,640	748	1,329
一般土木工事	5,248	7,060	4,071	10,336
建築工事	8,154	13,403	5,864	7,015
その他工事	811	401	1,409	1,205
合計	55,583	63,164	55,155	58,492

(注) 当社グループでは、建設事業以外は受注生産を行っておりません。

売上実績

セグメントの名称	前第2四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)		当第2四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年9月30日)	
	金額(百万円)	構成比(%)	金額(百万円)	構成比(%)
建設事業	32,574	99.1	36,033	99.1
斜面・法面对策工事	10,087	30.7	9,924	27.3
うち法面保護工事	6,869	20.9	5,863	16.1
うち地すべり対策工事	3,217	9.8	4,060	11.2
基礎・地盤改良工事	12,580	38.3	12,266	33.7
補修・補強工事	793	2.4	980	2.7
環境修復工事	1,435	4.4	2,330	6.4
管きよ工事	396	1.2	728	2.0
一般土木工事	1,082	3.3	2,233	6.1
建築工事	5,696	17.3	6,630	18.2
その他工事	502	1.5	940	2.6
その他	283	0.9	325	0.9
合計	32,857	100.0	36,359	100.0

(注) セグメント間での取引については相殺消去しております。

第3【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	198,000,000
計	198,000,000

【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間末 現在発行数(株) (平成26年9月30日)	提出日現在発行数(株) (平成26年11月11日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	57,804,450	57,804,450	東京証券取引所 市場第一部	完全議決権株式であり、権利内容に何ら限定のない当社における標準となる株式であり、単元株式数は100株であります。
計	57,804,450	57,804,450	-	-

(2)【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4)【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
平成26年7月1日～ 平成26年9月30日	-	57,804,450	-	6,119	-	6,358

(6) 【大株主の状況】

平成26年9月30日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式総数に 対する所有株式数 の割合(%)
日本マスタートラスト信託銀行株式会社 (信託口)	東京都港区浜松町2-11-3	6,482	11.21
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社 (信託口)	東京都中央区晴海1-8-11	6,347	10.98
ライト工業株式会社	東京都千代田区五番町6番地2	5,144	8.90
太陽生命保険株式会社	東京都港区海岸1-2-3	2,734	4.73
株式会社三井住友銀行	東京都千代田区丸の内1-1-2	2,629	4.55
日本生命保険相互会社	東京都千代田区丸の内1-6-6	1,975	3.42
株式会社北陸銀行	富山県富山市堤町通り1-2-26	1,601	2.77
THE CHASE MANHATTAN BANK, N.A. LONDON SECS LENDING OMNIBUS ACCOUNT (常任代理人株式会社みずほ銀行決済営業部)	WOOLGATE HOUSE, COLEMAN STREET LONDON EC2P 2HD, ENGLAND (東京都中央区月島4-16-13)	1,344	2.33
資産管理サービス信託銀行株式会社 (証券投資信託口)	東京都中央区晴海1-8-12	1,109	1.92
あいおいニッセイ同和損害保険株式会社 (常任代理人日本マスタートラスト信託銀行 株式会社)	東京都渋谷区恵比寿1-28-1 (東京都港区浜松町2-11-3)	720	1.25
計	-	30,089	52.05

(注) 上記所有株式数のうち、信託業務に係る株式数は次のとおりであります。

日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	6,482千株
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	6,347千株
資産管理サービス信託銀行株式会社(証券投資信託口)	1,109千株

(7)【議決権の状況】
 【発行済株式】

平成26年9月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 5,144,100	-	権利内容に何ら限定のない当社における標準となる株式
完全議決権株式(その他)	普通株式 52,608,100	526,081	同上
単元未満株式	普通株式 52,250	-	1単元(100株)未満の株式
発行済株式総数	57,804,450	-	-
総株主の議決権	-	526,081	-

(注)「単元未満株式」欄の普通株式には、当社所有の自己株式46株が含まれております。

【自己株式等】

平成26年9月30日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義所有 株式数(株)	他人名義所有 株式数(株)	所有株式数の 合計(株)	発行済株式総数に 対する所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) ライト工業株式会 社	東京都千代田区五 番町6番地2	5,144,100	-	5,144,100	8.90
計	-	5,144,100	-	5,144,100	8.90

2【役員の状況】

該当事項はありません。

第4【経理の状況】

1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成し、「建設業法施行規則」（昭和24年建設省令第14号）に準じて記載しております。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期連結会計期間（平成26年7月1日から平成26年9月30日まで）及び第2四半期連結累計期間（平成26年4月1日から平成26年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表について、新日本有限責任監査法人による四半期レビューを受けております。

1【四半期連結財務諸表】

(1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成26年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成26年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金預金	12,199	16,625
受取手形・完成工事未収入金等	32,764	22,608
有価証券	400	700
未成工事支出金	4,892	9,340
商品及び製品	23	18
材料貯蔵品	210	272
未収入金	17	72
繰延税金資産	499	455
その他	549	592
貸倒引当金	156	157
流動資産合計	51,400	50,526
固定資産		
有形固定資産		
建物・構築物(純額)	2,026	1,972
機械・運搬具(純額)	691	900
土地	8,969	8,969
リース資産(純額)	908	741
建設仮勘定	391	955
その他(純額)	184	218
有形固定資産合計	13,171	13,757
無形固定資産	126	114
投資その他の資産		
投資有価証券	3,510	3,783
その他	3,957	2,837
貸倒引当金	665	659
投資その他の資産合計	6,802	5,962
固定資産合計	20,100	19,833
資産合計	71,500	70,360

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成26年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成26年9月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形・工事未払金等	20,408	16,057
短期借入金	1,100	600
1年内返済予定の長期借入金	53	28
未払法人税等	2,221	955
未成工事受入金	5,202	8,885
完成工事補償引当金	165	123
工事損失引当金	46	52
未払費用	1,451	1,246
その他	1,133	1,641
流動負債合計	31,783	29,588
固定負債		
長期借入金	158	148
退職給付に係る負債	1,701	420
長期未払金	27	36
リース債務	606	432
再評価に係る繰延税金負債	1,167	1,167
その他	253	318
固定負債合計	3,913	2,524
負債合計	35,697	32,113
純資産の部		
株主資本		
資本金	6,119	6,119
資本剰余金	6,358	6,358
利益剰余金	26,502	28,236
自己株式	1,699	1,699
株主資本合計	37,280	39,014
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	562	754
土地再評価差額金	814	814
為替換算調整勘定	358	525
退職給付に係る調整累計額	1,584	1,233
その他の包括利益累計額合計	1,477	767
純資産合計	35,803	38,246
負債純資産合計	71,500	70,360

(2)【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第2四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年9月30日)
売上高		
完成工事高	32,574	36,033
兼業事業売上高	283	325
売上高合計	32,857	36,359
売上原価		
完成工事原価	27,891	29,914
兼業事業売上原価	221	267
売上原価合計	28,113	30,181
売上総利益		
完成工事総利益	4,683	6,119
兼業事業総利益	61	58
売上総利益合計	4,744	6,177
販売費及び一般管理費	1,363	1,407
営業利益	1,113	2,160
営業外収益		
受取利息	9	23
受取配当金	31	38
受取保険金	5	74
受取賃貸料	28	29
為替差益	35	16
その他	54	58
営業外収益合計	165	240
営業外費用		
支払利息	10	14
支払保証料	14	20
支払手数料	11	73
その他	34	16
営業外費用合計	71	124
経常利益	1,208	2,276
特別利益		
固定資産売却益	3	20
退職給付制度終了益	-	169
特別利益合計	3	190
特別損失		
固定資産除売却損	2	0
関係会社株式評価損	7	-
特別損失合計	9	0
税金等調整前四半期純利益	1,202	2,466
法人税、住民税及び事業税	242	835
法人税等調整額	43	44
法人税等合計	285	879
少数株主損益調整前四半期純利益	916	1,586
四半期純利益	916	1,586

【四半期連結包括利益計算書】
 【第2四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年9月30日)
少数株主損益調整前四半期純利益	916	1,586
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	346	192
為替換算調整勘定	86	166
退職給付に係る調整額	-	351
その他の包括利益合計	433	709
四半期包括利益	1,350	2,296
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	1,350	2,296
少数株主に係る四半期包括利益	-	-

(3)【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	1,202	2,466
減価償却費	445	521
貸倒引当金の増減額(は減少)	89	5
完成工事補償引当金の増減額(は減少)	5	42
工事損失引当金の増減額(は減少)	3	5
退職給付引当金の増減額(は減少)	359	-
退職給付に係る負債の増減額(は減少)	-	256
建替関連損失引当金の増減額(は減少)	84	-
受取利息及び受取配当金	40	62
支払利息	10	14
手形売却損	2	3
関係会社株式評価損	7	-
売上債権の増減額(は増加)	3,321	10,198
未成工事支出金の増減額(は増加)	3,636	4,448
たな卸資産の増減額(は増加)	45	56
仕入債務の増減額(は減少)	863	4,359
未成工事受入金の増減額(は減少)	2,521	3,673
その他	686	32
小計	1,885	7,619
利息及び配当金の受取額	40	62
利息の支払額	10	14
手形売却に伴う支払額	2	3
法人税等の支払額	863	2,058
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,049	5,606

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年9月30日)
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有価証券の取得による支出	500	700
有価証券の償還による収入	-	400
有形固定資産の取得による支出	185	859
有形固定資産の売却による収入	4	24
無形固定資産の取得による支出	31	19
投資有価証券の取得による支出	3	12
投資有価証券の売却による収入	195	-
関係会社貸付金の回収による収入	52	52
保険積立金の解約による収入	235	-
投資不動産の取得による支出	274	14
投資不動産の売却による収入	-	1,020
その他	55	15
投資活動によるキャッシュ・フロー	451	93
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額（は減少）	100	500
長期借入金の返済による支出	33	34
リース債務の返済による支出	155	166
自己株式の取得による支出	0	0
配当金の支払額	417	524
財務活動によるキャッシュ・フロー	706	1,225
現金及び現金同等物に係る換算差額	85	137
現金及び現金同等物の増減額（は減少）	23	4,425
現金及び現金同等物の期首残高	12,766	12,099
現金及び現金同等物の四半期末残高	12,742	16,525

【注記事項】

(会計方針の変更)

(退職給付に関する会計基準等の適用)

「退職給付に関する会計基準」(企業会計基準第26号 平成24年5月17日。以下「退職給付会計基準」という。)及び「退職給付に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第25号 平成24年5月17日。以下「退職給付適用指針」という。)を、退職給付会計基準第35項本文及び退職給付適用指針第67項本文に掲げられた定めについて第1四半期連結会計期間より適用し、退職給付債務及び勤務費用の計算方法を見直し、退職給付見込額の期間帰属方法を期間定額基準から給付算定式基準へ変更、割引率の決定方法を残存勤務期間に基づく割引率から単一の加重平均割引率へ変更しております。

退職給付会計基準等の適用については、退職給付会計基準第37項に定める経過的な取扱いに従って、当第2四半期連結累計期間の期首において、退職給付債務及び勤務費用の計算方法の変更に伴う影響額を利益剰余金に加減しております。

この結果、当第2四半期連結累計期間の期首の退職給付に係る負債が673百万円減少し、利益剰余金が673百万円増加しております。また、当第2四半期連結累計期間の営業利益、経常利益及び税金等調整前四半期純利益はそれぞれ14百万円減少しております。

(四半期連結貸借対照表関係)

1 受取手形割引高及び受取手形裏書譲渡高

	前連結会計年度 (平成26年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成26年9月30日)
受取手形割引高	866百万円	853百万円
受取手形裏書譲渡高	14	0

2 偶発債務

下記の会社の分譲住宅販売に係る手付金等受領額に対して、信用保証会社への保証を行っております。

	前連結会計年度 (平成26年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成26年9月30日)
(株)タカラレーベン	392百万円	(株)タカラレーベン 525百万円
(株)ジョイント・コーポレーション	2百万円	(株)ジョイント・コーポレーション 47百万円
(株)グローバル・エルシード	127百万円	(株)オンズコンフィアンス 36百万円

(四半期連結損益計算書関係)

1 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年9月30日)
従業員給料及び手当	1,938百万円	2,084百万円
退職給付費用	57	120

2 売上にかかる季節的変動

前第2四半期連結累計期間(自平成25年4月1日至平成25年9月30日)及び当第2四半期連結累計期間(自平成26年4月1日至平成26年9月30日)

当社グループの主たる事業である建設事業においては、工事の完成計上が第4四半期連結会計期間に偏るといった季節的変動があります。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

1 現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係

	前第2四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年9月30日)
現金及び預金勘定	12,842百万円	16,625百万円
預入期間が3ヶ月を超える定期預金	100	100
現金及び現金同等物	12,742	16,525

(株主資本等関係)

前第2四半期連結累計期間(自平成25年4月1日至平成25年9月30日)

1. 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成25年6月27日 定時株主総会	普通株式	421	8.0	平成25年3月31日	平成25年6月28日	利益剰余金

当第2四半期連結累計期間(自平成26年4月1日至平成26年9月30日)

1. 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成26年6月26日 定時株主総会	普通株式	526	10.0	平成26年3月31日	平成26年6月27日	利益剰余金

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第2四半期連結累計期間(自平成25年4月1日至平成25年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント	その他 (注)	合計
	建設事業		
売上高			
外部顧客への売上高	32,574	283	32,857
セグメント間の内部売上高又は振替高	-	592	592
計	32,574	875	33,450
セグメント利益	1,085	30	1,115

(注) 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、商品資材販売事業、リース事業及び訪問介護事業等を含んでおります。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位:百万円)

利益	金額
報告セグメント計	1,085
「その他」の区分の利益	30
セグメント間取引消去	1
四半期連結損益計算書の営業利益	1,113

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報
 該当事項はありません。

当第2四半期連結累計期間(自平成26年4月1日至平成26年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント	その他 (注)	合計
	建設事業		
売上高			
外部顧客への売上高	36,033	325	36,359
セグメント間の内部売上高又は振替高	-	643	643
計	36,033	969	37,002
セグメント利益	2,139	21	2,161

(注)「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、商品資材販売事業、リース事業及び訪問介護事業等を含んでおります。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位:百万円)

利益	金額
報告セグメント計	2,139
「その他」の区分の利益	21
セグメント間取引消去	0
四半期連結損益計算書の営業利益	2,160

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報
 該当事項はありません。

4. 報告セグメントの変更等に関する事項
 (退職給付に関する会計基準等の適用)

「会計方針の変更」に記載のとおり、退職給付債務及び勤務費用の計算方法を見直し、退職給付見込額の期間帰属方法を期間定額基準から給付算定式基準へ変更し、割引率の決定方法を残存勤務期間に基づく割引率から単一の加重平均割引率へ変更しております。この結果、従来の方法に比べ、建設事業の当第2四半期連結累計期間におけるセグメント利益が14百万円減少しております。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年9月30日)
1株当たり四半期純利益金額	17円41銭	30円13銭
(算定上の基礎)		
四半期純利益金額(百万円)	916	1,586
普通株主に帰属しない金額(百万円)	-	-
普通株式に係る四半期純利益金額(百万円)	916	1,586
普通株式の期中平均株式数(千株)	52,661	52,660

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2【その他】

該当事項はありません。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成26年11月11日

ライト工業株式会社
取締役会 御中

新日本有限責任監査法人

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 山口 俊夫 印

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 藤原 明 印

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 本間 愛雄 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられているライト工業株式会社の平成26年4月1日から平成27年3月31日までの連結会計年度の第2四半期連結会計期間（平成26年7月1日から平成26年9月30日まで）及び第2四半期連結累計期間（平成26年4月1日から平成26年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、ライト工業株式会社及び連結子会社の平成26年9月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。

2. XBR Lデータは四半期レビューの対象には含まれていません。